

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
1	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	国家試験合格率の維持・向上	◆3学科 引き続き、国家試験合格率の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。	◎ 鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：△ 看護学科：◎	●国家試験合格状況 (合格率：①本学、②全国平均、③本学新卒、④全国新卒) はり師：①92.5%、②70.4%、③92.5%、④85.5% きゅう師：①92.5%、②71.7%、③92.5%、④85.9% 柔道整復師：①57.9%、②49.6%、③63.6%、④65.4% 看護師：①96.8%、②90.8%、③100%、④95.5% 保健師：①85.7%、②93.7%、③85.7%、④93.7% ◆鍼灸学科 新学期オリエンテーション時より年間を通じて2年生～4年生に対して国家試験合格に向けた指導を行った。新卒者の国家試験合格率は、はり師・きゅう師ともに92.5%であった。 ◆柔道整復学科 計画通り、国家試験の合格率の向上のために、模擬試験の後に実施する個別面談の回数を増やし、学生の習熟度の評価を細かく行った。また昨年同様、グループ学習の導入も行った。さらにオンデマンドの教材を準備し、学生が自主学習できる機会を増やすなどの対策を行ったが、目標の合格率(100%)を達成することができなかった。 ◆看護学科 看護師国家試験は全体、新卒ともに全国平均を上回り、新卒合格率は100%であった。保健師国家試験は14名中12名の合格にとどまり全国平均に至らなかった。	◆3学科 引き続き、国家試験合格率の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。		
2	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	成績上位者に対する研究意欲向上のための施策						
3	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	出欠管理の徹底による出席不良者への指導	◆3学科 引き続き、アクティブポータルの出欠確認の設定(アラートメール)活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。	◎ 鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 学生アドバイザーを中心に各学年のアクティブポータルのアラートメールによって欠席の多い学生を早期に発見しその対応に努めたこと、またその情報を学科教員全員に学科共有ファイルと学科会議にて共有できるよう努めたことで、学生アドバイザーを中心とし早期の対応ができた。しかし心身などの難しい問題を抱える学生もあり、そのような学生に対しては、学生総合支援室、また保護者とも連携して対応したが退学に至った学生もいた。 ◆柔道整復学科 アクティブポータルの出欠確認の設定(アラートメール)を活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ◆看護学科 出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を実施した。	◆3学科 引き続き、アクティブポータルの出欠確認の設定(アラートメール)活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。		
4	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	学力把握のためのアドバイザー制度の充実	◆3学科 引き続き、アドバイザーによる、学生の学力把握の徹底。	◎ 鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 学生アドバイザーを中心に、アクティブポータルの利用や当該学年の科目担当者、教務課、学生課、学生総合支援室と連携して学生の学修状況を把握した。成績不良者に対しては早期に面談を行い、その状況を共有ファイルに記載、毎月の学科会議の学生の動向で報告するなど、学科全教員でその状況を共有し、各学生に対し、複数教員でのサポート体制で臨んだ。必要に応じて学生総合支援室との連携や保護者を含めた面談を行った。 ◆柔道整復学科 期末試験終了後、教員へ成績一覧を配布し、再試験科目の多い学生について、情報共有を徹底したことで、アドバイザーから早期の指導を行うことができた。 ◆看護学科 成績不良学生へのアドバイザーによる成績の把握および指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を実施。	◆3学科 引き続き、アドバイザーによる、学生の学力把握の徹底。		

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
5	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	カリキュラムの検討及び改善	◆3学科 引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。	◎ 鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 2021年度に引き続き、A4・2枚の卒業論文提出フォーマットの他、成績下位者のための国家試験に直結するような内容でのA4・1枚の卒業研究要旨フォーマットを加えたことにより、2021年度と同様に成績下位者と指導教員の卒業研究に係る負担を軽減し、国家試験に向けての学習、指導に十分時間が割けた。 2023年度は学科内のFDワーキンググループ、教務・国家試験ワーキンググループを一本化して、カリキュラムの刷新を検討していくこととした。これに合わせカリキュラムポリシーの検討を行う必要が出てくると思われる。 ◆柔道整復学科 新カリキュラムへの移行も完了し、授業評価アンケートなどを活用することで、カリキュラム全体の再評価を行うことができた。 ◆看護学科 2019年度に新カリキュラムを導入し、今年度で4学年が新カリキュラムとなった。	◆3学科 引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。		
6	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	教養特講による基礎学力の強化 ↓ 低学年からの少人数ゼミによる基礎学力の強化	◆看護学科 全学年で少人数ゼミを実施。 1, 2年生では基礎学力の向上のため、3, 4年生では研究力向上のためのゼミナールの実施と評価。	◎ 看護学科：◎	◆看護学科 2019年度新カリキュラムから、基礎学力の向上を目指し、少人数グループによるゼミナール形式の授業を1年生から実施している。今年度も引き続き1, 2年生混成のゼミナール構成を導入し、上級生が下級生を指導することにより向上を図った。また、今年度は全学年が新カリキュラムとなったため、3年次、4年次の研究ゼミナールについても上級生による下級生の指導が継承され、年次ごとに学ぶべき内容が徹底強化された。	◆看護学科 引き続き、全学年で少人数ゼミを実施。1, 2年生では基礎学力の向上のため、3, 4年生では研究力向上のためのゼミナールの実施と評価。		
7	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	カリキュラム・ポリシーに則した学部の充実を意図した教育内容の評価	◆教務課 引き続き、 ① 教養教育と専門教育が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しを実施。 ② 医療職として長期的ビジョンに立ったキャリア形成ができるキャリア教育の充実。 ③ 学生が主体的に学ぶ姿勢や科学的思考を育むための授業内容の工夫や指導方法の改善。	◎ 教務課：◎	◆教務課 2022年度第3回教務委員会において、「アセスメント・ポリシー各項目の検証 教育課程レベル（学部・学科）」を議題に、カリキュラム・ポリシーに則って学修が進められているかどうかを検証した。 また、令和4年度に受審をした大学機関別認証評価の面談や書面質問のあった教育課程に関する参考意見を教務委員会で共有をして、今後の検討課題とすることの共通認識をした。 教授法の改善については全学的にFD研修会を開催し、各学科の取り組みを共有した。	◆教務課 引き続き、 ① 教養教育と専門教育が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しを実施。 ② 医療職として長期的ビジョンに立ったキャリア形成ができるキャリア教育の充実。 ③ 学生が主体的に学ぶ姿勢や科学的思考を育むための授業内容の工夫や指導方法の改善。		
8	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	カリキュラム・ポリシーに則した大学院の充実を意図した教育内容の評価	◆学務部（大学院） 引き続き、専門科目と共通科目が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しの実施。	◎ 学務部：◎	◆学務部 学長からの指示による「10年後を見据えた骨太の方針（案）」について各研究科委員会で協議を行った。入学者確保を優先事項とし、社会のニーズに合った魅力ある教育・研究への見直しについて引き続き協議をする。	◆学務部（大学院） 引き続き、専門科目と共通科目が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しの実施。		

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
9	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	教育の実施体制	引き続き、 ◆3学科 地域社会が本学の教育研究活動に期待する役割を常に意識しながら、教育組織の見直しや教員の適正配置を検討。 ◆教務課 教員による相互評価や研修の実施など授業内容・方法を改善・向上させるための組織的な取組（ファカルティ・ディベロップメント）の充実・強化。 ◆国際交流センター 留学生の受入れや学生の海外留学に対する全学的な支援体制を強化。 ◆図書館 図書館の館内環境の整備や、ICTを積極的に活用した学修環境を充実するため取組む。 ◆大学院 大学院では、専攻分野の専門性を高めるため、研究指導や教育支援体制の改善に努め、細やかな教育研究指導を実施。	◎	◆鍼灸学科 「附属鍼灸センター実習Ⅰ・Ⅱ」「社会鍼灸学」「卒業研究」「鍼灸経営論」などの科目を中心に地域社会における鍼灸の意義・役割に関する意識を高める教育、またその基盤となる研究を継続した。 ◆柔道整復学科 教員だけでなく、大学院生も一緒になって学部生をサポートする体制が整ったことで、学部生の教育研究活動をサポートすることができた。 ◆看護学科 カリキュラム改正の完成年度となる今年度においても引き続き組織の見直しや教員の適正配置を行った。 ◆教務課 第1回FD研修会（7/27開催）「看護学科におけるルーブリック評価表を用いた専門科目の達成度評価～学生の主体的な学びと自律性を育む仕掛けづくり」、第2回FD研修会（12/22開催）「鍼灸学科、柔道整復学科における卒業研究の取り組み事例」を対面で開催し、各学科の取り組みを共有するとともに、グループディスカッションや質疑応答を通じて、議論を深めた。 また、授業等により対面で参加できなかった教員には、研修会参加機会の損失がないよう、オンライン(オンデマンド)で配信してフォローした。 ◆国際交流センター 新型コロナの影響により計画どおり実施できなかった。 ◆図書館 図書館では、医学文献データベース4種（国内2種＋外国2種）を新規導入した結果、大幅な電子化を図ることができた。また、在籍生や専任教職員であれば、学外からもアクセスできる環境を整備した。 ◆大学院 大学院生の研究の充実に向けて、大学院生から「在学生オリエンテーション」において意見聴取をした。また、TAの役割や基本的な心構えについて理解を深めることを目的に、TA研修会を実施した。またモンゴルからの留学生の受入や研究支援を可能な限り行った。 ◆IR委員会 各教員の研究業績や教育等に関する実績をまとめることで、本学の総合的な教育力や強味を示すことができる。そのための教員業績調査を令和5年度から実施できるよう、調査項目を決定し、調査方法を検討し	引き続き、 ◆3学科 地域社会が本学の教育研究活動に期待する役割を常に意識しながら、教育組織の見直しや教員の適正配置を検討。 ◆教務課 教員による相互評価や研修の実施など授業内容・方法を改善・向上させるための組織的な取組（ファカルティ・ディベロップメント）の充実・強化。 ◆国際交流センター 留学生の受入れや学生の海外留学に対する全学的な支援体制を強化。 ◆図書館 図書館の館内環境の整備や、ICTを積極的に活用した学修環境を充実するため取組む。 ◆大学院 大学院では、専攻分野の専門性を高めるため、研究指導や教育支援体制の改善に努め、細やかな教育研究指導を実施。	◆IR委員会 学長からの特命事項として、教員業績調査を実施する。	
10	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	学生のPC必携化、ペーパーレス化の推進	◆情報センター 学生にPC必携化は当面見送り。PC所有を欲するような環境作りを図る(PC所有により学修が捗るなど)。PC購入に対する支援制度(割引購入、ソフトウェアの提供など)の検討。 他大学の事例を調査する。	◎	◆情報センター 本学において、学生は費用負担なしにWindows OSやMicrosoft 365 Apps(旧称Office、Word、Excel等)、統計解析ソフト等を入手できるようになっており、その入手方法を学内ポータルサイト(TAUポータル)に分かりやすく掲載した。また、PCの割引購入の案内についても掲載した。			
11	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	授業収録・配信の必要性や効果の検証・実施	◆情報センター 授業収録・配信を本格稼働の開始。	◎	◆情報センター 2021年度までに主要な講義室の整備を完了した。すべての授業を対面で実施することを基本にしたため、授業収録・配信を全学で積極的に導入しなかったが、教職員向けの研修会では収録・配信を活用した。			
12	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	授業・研究で役に立つコンテンツの整備	◆情報センター 新サイトへの移行とコンテンツ運営による基礎学力に関する検証を行う。	○	◆情報センター 新サイトへの移行が完了。学部・大学院のサイトに論文の書き方、研究スタイル等の項目を追加。また研究倫理のサイトを設けた。教員にClassroomを通して授業のコンテンツを充実させる支援を行った。基礎学力の評価指標について調査した。			

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
追加1	教育研究等の質の向上	ディプロマ・ポリシーを反映させた教育の実践	専門職としてのビジョン創造の支援	<p>◆鍼灸学科 臨床家としての心構えや将来展望を描けるようになるための、附属鍼灸センター関連授業や就職ガイダンスの実施。</p> <p>◆柔道整復学科 臨床実習や附属接骨センターでの実習を通して、学生が柔道整復師としての将来像を描けるように支援する。</p> <p>◆看護学科 看護専門職として様々な活躍の場について情報提供し、どのようなキャリアを積んでいくのかビジョンを描けるよう支援する。</p> <p>◆IR委員会 学修行動調査における「ディプロマポリシーの達成度」の調査結果を分析し、各学科へ還元する。</p>	◎	<p>◆鍼灸学科 「附属鍼灸センター実習」を軸とした鍼灸医学の臨床の科目、および卒業後の自分像を描く「鍼灸経営論」などの科目により、将来につながる教育を行った。就職に関しては、就職ワーキンググループを中心に全学年に対する就職セミナーの実施、企業紹介、求人情報、卒業生による講話を視聴できる就職支援サイトをweb上に構築、卒業生のキャリア/プロフィールシートを学生課に設置して閲覧可能にするなど学生が将来展望を描きやすくできるような努力をした。その結果、今年度は就職活動を早く終える学生が増加した。</p> <p>◆柔道整復学科 臨床実習（外部実習）や附属接骨センターでの実習では、見学だけでなく、柔道整復師の業務について、教員と学生間で十分にディスカッションする時間を確保することができた。</p> <p>◆看護学科 高学年においては例年通り、実習や就職セミナー等を通じてさまざまな看護、医療の現場を知る機会を提供するとともに、低学年においてもゼミナール等で看護学科教員のキャリアについて知る機会を設けた。またゼミナールでは、本学部のディプロマポリシーについて理解を深めるための全体講義を実施した。</p> <p>◆IR委員会 学修行動調査における「ディプロマ・ポリシーの達成度」の調査結果を各学科に還元した（結果の分析は未着手）。</p>	<p>◆鍼灸学科 臨床家としての心構えや将来展望を描けるようになるための、附属鍼灸センター関連授業や就職ガイダンスの実施。</p> <p>◆柔道整復学科 臨床実習や附属接骨センターでの実習を通して、学生が柔道整復師としての将来像を描けるように支援する。</p> <p>◆看護学科 引き続き、看護専門職として様々な活躍の場について情報提供し、どのようなキャリアを積んでいくのかビジョンを描けるよう支援する。</p> <p>◆IR委員会 学修行動調査における「ディプロマポリシーの達成度」の調査結果を分析し、各学科へ還元する。</p>	<p>◆IR委員会 学修行動調査における「ディプロマポリシーの達成度」の調査結果を分析し、各学科へ還元する。</p> <p>◆IR委員会 学修行動調査における「ディプロマポリシーの達成度」の調査結果を分析し、各学科へ還元する。</p>	
13	教育研究等の質の向上	学生ニーズの把握と分析	学生サポート体制	<p>◆3学科、学務部 引き続き、左記学生サポート体制の継続・検証・改善に関するPDCAサイクルの推進。</p>	◎	<p>◆鍼灸学科 対面また必要に応じて遠隔による補講や個別指導も行った。また大学院生による学習支援も大きなサポートとなっている。</p> <p>◆入学前授業の実施、国家試験対策（国家試験ワーキンググループを中心）の継続と検討、学生アドバイザー制度で入学前全員がディプロマポリシーを達成できるような体制を継続した。</p> <p>◆図書館の協力を得て、学部生の文献検索やレポート作成にかかわるサポートを行った。</p> <p>◆学科の就職WGを中心に各学年に対する就職セミナーを実施したほか、企業紹介や求人情報、卒業生による講話などの情報に、学生がいつでもアクセスできるような就職支援サイトをweb上に構築した。また、新たに卒業生のキャリア/プロフィールシートを学生課に設置して閲覧可能にした。</p> <p>◆柔道整復学科 各学生を担当するアドバイザーによるサポートの強化を行った。具体的には最終学年の学生に対して面談を行うことで、希望する進路（就職先を含む）を把握することができた。またアドバイザーにより成績不良や欠席の多い学生に対して面談を実施できたことは、早期に学生のニーズを把握する上で有用な手段となった。</p> <p>◆看護学科 入学前授業を実施し、入学前から入学後の大学生活や学習の意識づけを強化し、入学前後のドロップアウトの防止を図った。</p> <p>◆入試および毎年の成績を評価し、必要時、学生アドバイザーの選定等、効果的な学生指導を行うための情報として活用した。</p> <p>◆「少人数制で面倒見のいい大学」を実現するため、1年次から少人数編成によるゼミナールを行い、昨年度に引き続き1、2年生混成ゼミナールを開講するとともに、全学年が新カリキュラムとなった今年度においては3～4年生混成ゼミナールを導入した。</p> <p>◆学務部 学生相談室及び総合支援室で障害者対策や学修支援など、教員との連携によるサポートを強化するとともに、経済的困難者に対する授業料免除制度及び国の高等教育修学支援制度の的確な運用に努めた。</p> <p>◆退学者の状況・分析を行い、直近の年度については、在学中の成績推移も含めた入学前全員の卒業までの追跡調査を行った。</p> <p>◆入学前授業を鍼灸学科及び看護学科は遠隔で、柔道整復学科は対面で行い、大学入学後に行われる学修につながる課題を提示し、入学までの期間に取り組ませた。また、新入生対象スタートアップセミナーをコロナ禍前の形に戻し対面で実施した。</p>	<p>◆3学科、学務部 引き続き、左記学生サポート体制の継続・検証・改善に関するPDCAサイクルの推進。</p>		

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
14	教育研究等の質の向上	学生ニーズの把握と分析	教育の質の充実を目的とした授業評価アンケートの実施	<p>◆3学科、学務部 引き続き、 ・授業評価アンケートより得られた結果を教員へフィードバックし個々の改善を推進。 ・学生の要望を把握し対策を講じ、教員間連携を深めるために情報共有体制の強化を実施。</p>	<p>鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎ 教務課：◎ 大学院：○</p>	<p>◆鍼灸学科 各教員への授業評価アンケートのフィードバックはあったが、評価結果の解釈は難しく、学科全体としての情報共有には至らなかった。 学生ニーズの把握のため、オリエンテーション時に学科学生に対するアンケートを行う予定であったが、オリエンテーションが4月となったことから、年度内に実施できなかった（新学学期に実施予定）。 ◆柔道整復学科 授業評価アンケートの公表により、各教員へアンケート結果がフィードバックされた。また他の教員のアンケート結果が閲覧可能になったことから、それらを参考に各教員ごとにレベルアップに努めた。 ◆看護学科 授業評価アンケートの結果が公表され、各教員へフィードバックされた。昨年度に引き続き、他の教員のアンケート結果を参考に各教員ごとにレベルアップに努めた。 ◆教務課 授業評価アンケートの当該教員へのフィードバックは実施し、共有を図った。 第1回FD研修会（7/27）「看護学科におけるルーブリック評価表を用いた専門科目の達成度評価」、第2回FD研修会（12/22）「鍼灸学科、柔道整復学科における卒業研究の取り組み事例」を対面で開催し、各学科の取り組みを共有するとともに、グループディスカッションや質疑応答を通じて、議論を深めた（授業等により参加できなかった教員にはオンデマンドで配信してフォロー）。 ◆大学院 大学院生の研究の充実に向けて、大学院生から在学生オリエンテーションにおいて意見聴取をした。また、TAの役割や基本的な心構えについて理解を深めることを目的に、TA研修会を実施した。</p>	<p>◆3学科、学務部 引き続き、 ・授業評価アンケートより得られた結果を教員へフィードバックし個々の改善を推進。 ・学生の要望を把握し対策を講じ、教員間連携を深めるために情報共有体制の強化を実施。</p>		
15	教育研究等の質の向上	学生ニーズの把握と分析	アドバイザーによる学生の学習意欲等の把握（基礎学力の強化と検証の再掲）	<p>◆3学科 引き続き、学生ニーズ等に関わるPDCAサイクルの徹底。</p>	<p>鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎</p>	<p>◆鍼灸学科 各学年の学生アドバイザーを中心に、アクティブポータル、個別面談、卒業研究ゼミ、日常の学生との歓談などによって、学生の学習意欲や出席や成績の状況、ニーズについての把握について努めた。 ◆柔道整復学科 学科会議にてアドバイザーより各担当学生の学習意欲（成績不良、欠席日数）等を報告することで、アドバイザーだけでなく、学科内の教員で学生の現状把握に努めた。 ◆看護学科 学年ごとにアドバイザー、アドバイザーサプリーダー、アドバイザーリーダーの連携による成績不振者、出席不振者を中心とした学習意欲等の把握および個別指導を行うとともに、ポータルサイトを活用し、必要時、教職員間での学生に関わる情報の共有を図り、連携して対応を行った。</p>	<p>◆3学科 引き続き、学生ニーズ等に関わるPDCAサイクルの徹底。</p>		
16	教育研究等の質の向上	学生ニーズの把握と分析	意見箱の活用	<p>◆全学 引き続き、投函された意見を該当委員会にて検討するとともに成果の検証を実施。</p>	<p>鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎ 学務部：◎</p>	<p>◆鍼灸学科 学生ニーズは学生アドバイザーや学科の教員が学生との面談や日常会話で直接得ることができ、必要に応じて学科内で共有・検討した。在学生オリエンテーション時の要望などを聞く学生アンケートは在学生オリエンテーションが4月にになったため実施できなかった（新年度に入って実施予定）。 ◆柔道整復学科 意見箱の内容は、学生委員会により開封され、該当する場合に学科に報告される。内容によっては、学科会議にて公表及び共有し学科として回答するようにしている。 ◆看護学科 意見箱の内容については、学科として回答をおこない、意見及び回答を共有した。 ◆学務部 意見箱の内容については、学生委員会に報告・検討している（ただし、投函される意見要望件数が少なく、大半が無記名）。それ以外に、学生サポートセン</p>	<p>◆全学 引き続き、投函された意見を該当委員会にて検討するとともに成果の検証を実施。</p>		

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
17	教育研究等の質の向上	学生ニーズの把握と分析	積極的な課外活動（サークル活動など）の支援	◆学生委員会 引き続き、部活動やサークル活動において、他大学との交流を含めた積極的な課外活動支援の継続強化。	学生委員会：－	◆学生委員会 コロナ対策を講じて、コロナ禍前のような活動を支援した。	◆学生委員会 引き続き、部活動やサークル活動において、他大学との交流を含めた積極的な課外活動支援の継続強化。		
18	教育研究等の質の向上	退学率の改善	留年者、退学者対策	◆3学科、学務部 引き続き、左記学生サポート体制の継続・検証・改善。 PDCAサイクルの推進。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎ 学務部：◎	◆鍼灸学科 学生アドバイザーがアクティブポータルで学生の出欠をチェックし、欠席が多い学生は内容を学科共有ファイルに記入するとともに、個別面談・指導を行った。また、必要に応じて学生総合支援室と連携して保護者を交えた面談を行い、詳細な状況や面談の内容を学科会議で報告し、学科全体で共有し対策を検討した。しかしながら、学習障害者やモチベーション低下による成績不良者の対応は難しく、そのほとんどが退学に至ってしまった。 留年者、退学者の減少させることはできなかったが、最小限の人数に留めることができたと思う。 ◆柔道整復学科 学生総合支援室と密に連携を取ることで、成績不良や欠席の多い学生、大学での学業に不安を抱える学生に対して、早期の対応が可能となり、退学者の減少につながった。 ◆看護学科 アドバイザー、アドバイザーサブリーダー、アドバイザーリーダーにより、成績不振者、出席不良者への個別対応を行い、ポータルサイトを用いて共有し、年度途中での脱落者に対応した。 ◆学務部 学生アドバイザー制度の活用により学生との接点を増やし、学生指導を徹底しつつ、学生総合支援室と教員との連携機会が増加した。 成績不振者ガイドラインに基づいた、退学・留年予備軍の把握、学生指導を実施した。	◆3学科、学務部 引き続き、左記学生サポート体制の継続・検証・改善。 PDCAサイクルの推進。		
19	教育研究等の質の向上	退学率の改善	留年者、退学者対策	◆3学科 引き続き、 ・低学力学生の早期スクリーニングシステムの活用。 ・学生相談室(特別支援教室)の研修生・研究生・外部者などによる有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上の取組みを目指した補講の実施。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 1,2年生については、学生アドバイザーを中心に学期末試験、再試験の結果や欠席数などをもとに、問題があると思われる学生について面談・指導を実施した。 3年生については、上記に加え、卒業研究担当教員による指導、国家試験ワーキンググループによる補講を実施した。4年生については国家試験ワーキンググループによる夏・冬季休暇期間中を含め、年間を通して補講を実施するとともに、成績下位者を対象として試験前の2か月間、遠隔による補習を実施した。 成績不良者については科目担当者、卒業研究担当者が適宜面談し、成績向上に向けての指導を行い、また種々の問題を抱える学生に対しては必要に応じて保護者も交え、学生総合支援室の臨床心理士による面談・指導を実施した。 ◆柔道整復学科 一昨年に行った進級要件の変更により、早期より学生（1,2年生）に対して試験対策を含めたアプローチを行うことができた。そのことで退学者の大幅な減少につながった。 ◆看護学科 アドバイザー、アドバイザーサブリーダー、アドバイザーリーダーによる成績不振者、出席不振者への個別対応を行い、ポータルサイトを用いて共有し、年度途中での脱落者に対応した。	◆3学科 引き続き、 ・低学力学生の早期スクリーニングシステムの活用。 ・学生相談室(特別支援教室)の研修生・研究生・外部者などによる有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上の取組みを目指した補講の実施。		

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
20	教育研究等の質の向上	退学率の改善	出欠管理の徹底	◆3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 アクティブポータルのアラートメールによって欠席の多い学生を早期に見つけ、学生アドバイザーや卒業研究担当教員を中心に学生に注意喚起し、必要に応じて学生総合支援室と連携して面談・指導を行った。出席数不足による学期末試験受験不可者の減少に結びついた学生もいたが、その多くは留年や退学となってしまった。 ◆柔道整復学科 アラートメールを活用したことで、出席不良者を早期かつ容易に把握することが可能となった。 ◆看護学科 各科目においてAPによる出欠管理の徹底を図るとともに、アラートメールによる出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー・学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を実施。	◆3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。		
21	教育研究等の質の向上	退学率の改善	アドバイザーによる成績不良者等要指導者に対する継続指導の徹底	◆3学科 学生の現状把握ときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 1,2,3年生については各学期の終了後、学生アドバイザーが担当年度の成績を確認し、成績不良者に対しては面談・指導、更に必要があれば保護者面談を実施した。4年生については特に通年で実施する各総合実力試験の結果を受けて学生アドバイザー面談、学習指導を行った。 全学年の学生の状況については、学科共有ファイルや学科会議でのアドバイザーによる学生の動向報告などにより共有し、学習に問題がある学生の早期発見に努めた。 学習障害など指導に専門的知識が必要とされる場合は学生総合支援室の臨床心理士による面談・指導を行った。 ◆柔道整復学科 アラートメールの活用、教員間での成績の共有、学科会議時に学生の動向（気になる学生）の報告を行うことで、早期にアドバイザーが指導を行うことができた。 ◆看護学科 アドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー・学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。	◆3学科 学生の現状把握ときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。		
22	教育研究等の質の向上	退学率の改善	学生支援室(特別支援教室)設置および支援室への大学院生・研究生・卒業生などの有効利用	◆3学科、学務部 学生相談室(特別支援教室)の設置による研修生・研究生・外部者などの有効利用開始。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎ 学務部：◎	◆鍼灸学科 学生総合支援室と連携して学生支援を行うことで、種々の問題を抱える学生に対して、より専門的で細やかな指導や助言が可能となった。ただし、受験者がほぼ全員入学する現状では基礎学力の低い学生や心身に問題を抱えた学生が増加し、その対応が難しく、留年や退学に至るケースが増えている。4年生の成績下位者に対する国家試験対策の支援に関しては、TAのほか、研究生や大学院生の協力が大きな助けとなった。研究生や大学院生の活用を組織的に実施できるようになれば学生指導に大きなプラスになると思われる。 ◆柔道整復学科 学生総合支援室と密に連携を取ることで、大学院生などで大学での生活に不安を抱える学生に対して早期にアプローチを行う体制が整った。 ◆看護学科 必要時、カウンセラー・学生課と連携し、学生への対応を行う体制を整え、学生の支援を実施。 ◆学務部 学生総合支援室において学修支援を行っている。また、大学院生によるTA制度を活用し、学部指導補助も行った。	◆3学科、学務部 学生相談室(特別支援教室)の設置による研修生・研究生・外部者などの有効利用開始。		
23	教育研究等の質の向上	退学率の改善	経済的側面に対する支援制度の継続的実施	◆財務部、学務部 授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の継続実施。	財務部：◎ 学務部：◎	◆財務部 学務部からの書類に基づき、適正な会計処理、正しい金額算定を行った。 ◆学務部 授業料免除等規則の経済的理由(家計急変を含む)による授業料納入困難者も授業料免除の対象者とし、中途退学防止策とした。	◆財務部、学務部 授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の継続実施。		

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
24	教育研究等の質の向上	退学率の改善	保護者との連携強化	◆3学科 引き続き、退学者の未然防止のため、保護者への成績表の郵送および、必要時、保護者面談を実施。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 成績や出欠などに問題がある学生については学生アドバイザーが保護者と連絡を取り、学生の成績などの状況を共有し、必要に応じて学生アドバイザーを中心とする教員や学生総合支援室と連携して、保護者と対面、または遠隔での面談し、退学の防止に努めた。4年生の保護者面談は実施しなかった。 ◆柔道整復学科 成績不良者に対して教員（学生総合支援室を含む）より保護者に電話連絡や面談を行うなど、可能な限り退学率の改善に努めた。 ◆看護学科 必要時、保護者との面談や電話相談を実施し、就学継続を確認し、保護者と連携して学生の支援を行った。就学継続が困難なケースについて、理由を明確にし、入学者選抜試験を検討する際の資料とする。	◆3学科 引き続き、退学者の未然防止のため、保護者への成績表の郵送および、必要時、保護者面談を実施。		
25	教育研究等の質の向上	退学率の改善	入学時点におけるミスマッチングの防止	◆看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。	看護学科：◎	◆看護学科 指定校推薦入試の枠を増やすことで、指定校からの入学者増加に結びついた。	◆看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。		
26	教育研究等の質の向上	退学率の改善	入学時点におけるミスマッチングの防止	◆看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。	看護学科：◎	◆看護学科 指定校推薦入学者の評価を行い、指定校推薦入試の枠の評価を行った。	◆看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。		
27	教育研究等の質の向上	退学率の改善	学務システムの改善と有効活用						
28	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	治療体験・健康相談等実施（附属鍼灸センター） （削除、NO.31へ）						
29	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	研究を含めた来院患者等に関連した医療機関との連携推進（附属鍼灸センター） （削除・NO.55へ）						
30	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	高校生・地域向けセミナー等の開催 （削除、NO.31、NO.59へ）						

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
31	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	行政（江東区）、地域団体・機関及び有明スポーツセンター近隣住民との連携	◆鍼灸学科 行政(江東区)、有明スポーツセンター、有明マンション連合自治会などとの連携・地域協力推進。 附属鍼灸センターや鍼灸学科による地域向けセミナー・健康相談等の開催。	鍼灸学科：◎	◆鍼灸学科 豊洲フェスタ、有明まつり、とよすパークフェスタ、超体験NHKフェス（ツボ・ワークショップ）に参加し、ブースの出展や講演活動を通じて、地域住民との交流や、来場者に対する鍼灸の啓蒙活動を行った。 また、近隣住民に対する啓蒙活動の一環として、江東区健康センター主催の健康講演会「こころと体にやさしい薬膳講座」、中央区民カレッジ（聖路加国際大学連携）まなびのコース「見つけよう！自分に合った健康法：体を整えよう」において鍼灸学科教員による講演を行った。	◆鍼灸学科 行政(江東区)、有明スポーツセンター、有明マンション連合自治会などとの連携・地域協力推進。 附属鍼灸センターや鍼灸学科による地域向けセミナー・健康相談等の開催。	◆鍼灸学科 近隣機関との連携・地域協力推進。 附属鍼灸センター(研修スタッフ)や鍼灸学科(教員、大学院生、学部生)による地域向けセミナー・健康相談等の開催。	
32	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	本学の人的資源を活かした連携	◆柔道整復学科 引き続き、地域連携として近隣中学校の授業（柔道）の支援や地域の子供達を対象にした少年柔道教室を開講し、さらなる連携強化を継続。	柔道整復学科：◎	◆柔道整復学科 少年柔道教室を週2回開催し、地域の子供達を中心に約80名が稽古に励んだ。	◆柔道整復学科 引き続き、地域連携として近隣中学校の授業（柔道）の支援や地域の子供達を対象にした少年柔道教室を開講し、さらなる連携強化を継続。		
33	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	有明マンション連合自治会との連携	◆柔道整復学科 引き続き、TAU健康体操教室を企画し、さらなる地域連携を強化。	柔道整復学科：◎	◆柔道整復学科 10～11月に地域の住民（30名）を対象にTAU健康体操教室（全7回）を開催した。	◆柔道整復学科 引き続き、TAU健康体操教室を企画し、さらなる地域連携を強化。		
34	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	附属クリニック/接骨センターの活用	◆柔道整復学科 引き続き、附属クリニック・接骨センターの充実を図り、地域住民の健康の保持・増進はもとより、地域住民が安心して暮らせる環境の提供を継続。	柔道整復学科：◎	◆柔道整復学科 近年、接骨センターの患者数も増加していることから、地域住民の健康の保持・増進に貢献できていると考える。また附属接骨センターは附属クリニックとの連携が密であり、患者の後療依頼などが円滑に行うことができた。	◆柔道整復学科 引き続き、附属クリニック・接骨センターの充実を図り、地域住民の健康の保持・増進はもとより、地域住民が安心して暮らせる環境の提供を継続。		
35	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	図書館の開放	◆図書館 引き続き、図書館を無料開放するなどの環境整備を進め、地域との交流を促進。	図書館：一	◆図書館 コロナ感染症の影響のため、一般利用者（学外者）への開放を引き続き中止した。	◆図書館 引き続き、図書館を無料開放するなどの環境整備を進め、地域との交流を促進。		
36	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	江東区内各所におけるボランティア実習	◆看護学科 ボランティア実習導入（および導入効果の評価（老年看護学）	看護学科：◎	◆看護学科 2019年度導入以降、関連機関ならびに教務予定等との調整を行い、ボランティア実習を実施した。	◆看護学科 ボランティア実習導入（および導入効果の評価（老年看護学）		
37	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	公衆衛生看護学実習先企業の健康管理業務への提言	◆看護学科 引き続き、公衆衛生看護学実習先企業との協定実施。	看護学科：◎	◆看護学科 公衆衛生看護学実習が、実習先企業との協定内容のとおり行われているか途中評価を実施。	◆看護学科 引き続き、公衆衛生看護学実習先企業との協定実施。		

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
38	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	シミュレーション・ラボにおける訪問看護師の 卒後教育の実施	◆看護学科 学生教育用シミュレーショ ン・ラボへの協定先の訪問看 護師の実技演習受け入れ及び 評価。	看護学科：－	◆看護学科 依然としてコロナ感染症の状況が続き、実施に至ら なかった。今後、運用についての検討の必要がある。	◆看護学科 学生教育用シミュレーショ ン・ラボへの協定先の訪問看 護師の実技演習受け入れ及び 評価。		
39	教育研究等の質の向上	他大学との連携	共同研究の推進（他大学/他学科）	◆3学科 引き続き、学内外の共同研究 を推進するための環境整備を 実施。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 学外では、Harvard Medical School の Ted Kaptchuk教 授(本学客員教授)及び Jian Kong教授(本学客員教授)、 イリノイ大学看護学部のJudith Schlaeger准教授(本学客 員教授)及びCrystal Patil教授（同大学看護部長）、フロ リダ大学看護学部Diana Wilkie教授、東京大学の久保啓 太郎准教授、東京大学の中澤公孝教授との共同研究を 実施した。 そのほか、東京都健康長寿医療センター 老化脳神経 科学研究チーム、理化学研究所 革新知能統合研究セン ター 分散型ビッグデータチーム、埼玉医科大学 東洋 医学科、森ノ宮医療大学、帝京平成大学、昭和大学発 達障害医療研究所、神奈川県立精神医療センターが、 共同研究先として新たに加わった。 ◆柔道整復学科 他大学の教員と連携し、積極的に共同研究を実施す ることができた。 ◆看護学科 個々の教員がそれぞれの研究テーマに応じ、それぞ れ他大学と連携し、共同研究などを実施した。	◆3学科 引き続き、学内外の共同研究 を推進するための環境整備を 実施。		
40	教育研究等の質の向上	他大学との連携	国際交流推進	◆学務部 引き続き、左記国際交流推進 体制の継続・検証・改善。 PDCAサイクルの推進。	学務部：◎	◆学務部 コロナ禍が落ち着きを見せた3月に、柔道整復学科 はモンゴ国立健康科学大学からの短期研修性の受け 入れを行い、看護学科は本学学生をシンガポール大学 に派遣した。	◆学務部 引き続き、左記国際交流推進 体制の継続・検証・改善。 PDCAサイクルの推進。		
41	教育研究等の質の向上	他大学との連携	MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大 学への教員派遣と学生研修	◆鍼灸学科 教育の質の向上を目的とし た、MCPHS大学、ハーバ ード・メディカル・スクール、 イリノイ大学 との連携による 隔年の学生研修。	鍼灸学科：－	◆鍼灸学科 コロナ感染症の影響のため、ポストン研修（MCPHS 大学やHarvard Medical School等での講義や、マサ チューセッツ総合病院、MIT博物館、ポストン美術館な どの見学など）の具体的な準備を進めることができな かった。しかし、今後の実施に向けてポストンの先生 方とのコンタクトを継続している。 また同様に、学外実習の中での、東京大学医学部附 属病院リハビリテーション科、埼玉医科大学病院東洋 医学科における鍼灸治療やチーム医療の実際について 研修も実施できなかった。	◆鍼灸学科 教育の質の向上を目的とし た、MCPHS大学、ハーバ ード・メディカル・スクール、 イリノイ大学 との連携による 隔年の学生研修。	◆鍼灸学科 教育の質の向上を目的とし た、MCPHS大学、ハーバ ード・メディカル・スクール、 イリノイ大学 との連携による 学生研修。	
42	教育研究等の質の向上	他大学との連携	シンガポール国立大学看護学部	◆看護学科 引き続き、学生派遣・受け入 れ及び教員間の研究・交流の 推進。	看護学科：◎	◆看護学科 2023年3月3日～12日にシンガポール国立大学看護 学部へ看護学部看護学科の学生7名（4次生1名、3 年次生5名、2年次生1名）が派遣された。うち1名 （2年次生）がJASSO協定派遣対象となった。	◆看護学科 引き続き、学生派遣・受け入 れ及び教員間の研究・交流の 推進。		
43	教育研究等の質の向上	他大学との連携	オーストラリアCharles Sturt大学	◆看護学科 学生派遣・受け入れ及び教員 間の研究・交流の推進。	看護学科：◎	◆看護学科 Web会議やメールを通して、学生派遣、受け入れに 向けた準備を継続して行った。（2023年度に派遣実施 予定）	◆看護学科 学生派遣・受け入れ及び教員 間の研究・交流の推進。		

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
44	教育研究等の質の向上	他大学との連携	モンゴル国立医療科学大学	◆柔道整復学科 引き続き、これまで柔道整復学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ・留学生受入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	柔道整復学科：◎	◆柔道整復学科 モンゴル国立医療科学大学から11名の学生の短期研修の受け入れを行った。（教員4名も来日）またモンゴルの留学生（大学院博士前期課程）2名も来日し、研究活動を行った。	◆柔道整復学科 引き続き、これまで柔道整復学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ・留学生受入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。		
45	教育研究等の質の向上	他大学との連携	龍仁大学校（韓国）	◆柔道整復学科 引き続き、武道（柔道・龍武道）を通じた大学間連携の継続推進。	柔道整復学科：一	◆柔道整復学科 新型コロナウイルスの影響で次回の世界大会に向けた稽古を行うことができなかった。	◆柔道整復学科 引き続き、武道（柔道・龍武道）を通じた大学間連携の継続推進。		
46	教育研究等の質の向上	教育成果の見える化	国家試験結果の公表	◆事務局 引き続き、HP等での国家試験結果の公表。 国家試験結果のみを速報として掲載し、その後他の資格試験結果を加える。	事務局：○	◆事務局 過去5年分（2017～2021）の国家試験結果をHPに公表している。 国家試験結果とともに、他の資格試験結果（公認アスレティックトレーナー、健康運動実践指導者）を掲載しており、その発表が例年6月に行われるため、公表が遅れる傾向にある。	◆事務局 引き続き、HP等での国家試験結果の公表。 国家試験結果のみを速報として掲載し、その後他の資格試験結果を加える。		
47	教育研究等の質の向上	教育成果の見える化	学生の研究成果公表	◆鍼灸学科 引き続き、学生の研究成果の学会発表、HP等での公開。 ◆柔道整復学科 学生による研究成果を関連の学術大会や学内の発表会で積極的に公表していく。 ◆看護学科 学生の研究成果の学内公開を実施する。 ◆看護学研究科 学術集会やジャーナルを通して積極的に社会還元を図る。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎ 看護学研究科：◎	◆鍼灸学科 冊子体の卒業論文集を電子化して作成する予定であったが、国家試験対策を優先せざるを得ない学生の卒業論文の提出が遅れ、新年度に入って完成させる予定である。 本学で実施された全日本鍼灸学会学術大会において、学部生2名の研究発表がなされ、1名には優秀賞が授与された。 ◆柔道整復学科 9月21日に学内にて卒業研究発表会を開催し、4年生の48名が成果報告を行った。第31回日本柔道整復接骨医学会学術大会（12/3～12/4）にて1名の学生が口頭発表を行った。 ◆看護学科 ゼミ毎に研究成果を発表し公開した。 ◆看護学研究科 修士1年生が大学紀要に論文投稿した。また、2021年度大学院修士生が、2022年度（今年度）、医療系	◆鍼灸学科 引き続き、学生の研究成果の学会発表、HP等での公開。 ◆柔道整復学科 学生による研究成果を関連の学術大会や学内の発表会で積極的に公表していく。 ◆看護学科（追加） 引き続き、学生の研究成果の学内公開を実施する。 ◆看護学研究科 学術集会やジャーナルを通して積極的に社会還元を図る。		
追加2	教育研究等の質の向上	教育成果の見える化	学生評価方法の検討（ルーブリック評価表による専門科目の達成度評価）	◆鍼灸学科 学期末試験・GPA・実力試験をもとにした総合的な学習達成度の評価。 ◆柔道整復学科 各教科における期末試験（筆記試験、実技試験）の結果をもとに学習達成度を評価する。 ◆看護学科 ルーブリック評価表を用いて専門科目の達成度評価を実施する。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 学期末試験、GPA、実力試験また新2,3,4年生については在学生オリエンテーション時の実力試験の成績などを参考に学生の学習達成度を評価した。4年生の国家試験合格率は92.5%であり、学生の成績評価には一定の妥当性があったと考える。 ◆柔道整復学科 期末試験（筆記試験、実技試験）による科目ごとの評価とともに、GPAの結果をもとに学習達成度を評価した。 ◆看護学科 実習、演習科目を中心にルーブリック評価表を用い、専門科目の達成度評価を実施した。	◆鍼灸学科 学期末試験・GPA・実力試験をもとにした総合的な学習達成度の評価。 ◆看護学科 引き続き、ルーブリック評価表を用いて専門科目の達成度評価を実施する。		

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
48	教育研究等の質の向上	臨床の質の向上	附属クリニック・附属鍼灸センター・附属接骨院の連携強化	◆附属診療施設 引き続き、附属鍼灸センター・附属クリニック・附属接骨院の連携の強化。	附属クリニック：◎ 附属鍼灸センター：◎ 附属接骨センター：◎	◆附属クリニック 昨年度に引き続き、鍼灸センターや接骨センターへ患者を紹介する際は指示書を活用し連携を図った。 ◆附属鍼灸センター 附属クリニック、接骨センターより患者の紹介を受け鍼灸治療を行った。鍼灸センター来院患者について必要に応じて附属クリニックに診察を依頼したほか、附属クリニックや附属接骨センターの受診を勧めるなど附属施設相互の連携により患者の状態に応じた対応ができた。 ◆附属接骨センター 近年、接骨センターの患者数が増加していること、また附属クリニックの医師との連携が強化したことにより、学生に対して充実した臨床実習が展開できている。また実習を担当する教員の質の向上にもつながっている。	◆附属診療施設 引き続き、附属鍼灸センター・附属クリニック・附属接骨院の連携の強化。		
49	教育研究等の質の向上	臨床の質の向上	附属医療施設における臨床研究（EBM）強化 ↓ 附属鍼灸センターにおける臨床及び臨床教育機能の強化	◆鍼灸学科 引き続き、附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。	鍼灸学科：◎	◆鍼灸学科 附属鍼灸センターに来院した患者からデータを収集した科研費基盤研究C『非特異的腰痛患者に対する鍼の効果』に関する研究、及び科研費基盤研究C『「肩こり」を問いなおす一米国における「neck pain」との比較から一』の結果を解析し、論文投稿に向けてまとめを行った。 附属鍼灸センターの患者を対象としたケーススタディや症例集積研究を全日本鍼灸学会等関連学会で報告した。また、鍼灸学科学部生や大学院生、研究生、センター研修生による、附属鍼灸センターを起点とした研究成果の発表も多数あった。 研究成果の論文等が『Medicina』『全日本鍼灸学会雑誌』『現代鍼灸学』『日本鍼灸新報』に掲載された。	◆鍼灸学科 引き続き、附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。		
50	教育研究等の質の向上	臨床の質の向上	附属医療施設における臨床研究（EBM）強化	◆鍼灸学科 引き続き、卒前・卒後における臨床教育講座の実施。	鍼灸学科：◎	◆鍼灸学科 コロナ感染症の影響下、感染予防対策を講じて臨床教育活動を行った。大学院生についても臨床実習の授業を行った。 卒前教育として学部4年生の附属鍼灸センター実習Ⅰ・Ⅱ、症例報告の書き方、症例報告、日本鍼灸理療専門学校2年生の見学実習、3年生の校外臨床実習の授業を行った。 卒後教育として本学および他の専門学校の卒業生23名を研修生として受け入れた。研修生については、研修成果報告会（1月14日）を開催し研修2年目以上の10名が報告を行い研修成果が確認された。	◆鍼灸学科 引き続き、卒前・卒後における臨床教育講座の実施。	◆鍼灸学科 引き続き、卒前・卒後における臨床教育の実施。	
51	教育研究等の質の向上	教育の質の向上	外部講師によるFD実施	◆鍼灸学科 引き続き、臨床及び研究能力向上を目的に外部講師を招聘し、教員に対するFDを実施。	鍼灸学科：一	◆鍼灸学科 コロナ感染症の影響で実施に至らなかった。	◆鍼灸学科 引き続き、臨床及び研究能力向上を目的に外部講師を招聘し、教員に対するFDを実施。	(削除)	

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
52	教育研究等の質の向上	教育の質の向上	海外教育プログラム	◆3学科 引き続き、各連携大学での研修プログラム等の実施。	鍼灸学科：一 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 ボストン研修（MCPHS大学やHarvard Medical School等での講義や、その他マサチューセッツ総合病院、MIT博物館、ボストン美術館などの見学）の準備を進める予定であったが、国内外におけるコロナ感染症による制限の影響により、実施できなかった。しかし、今後の実施に向けてボストンの先生方とのコンタクトを継続している。 ◆柔道整復学科 モンゴル国立医療科学大学の学長、教員と次年度に予定されている海外研修プログラムの準備を行うことができた。 ◆看護学科 シンガポール国立大学との間での相互研修派遣については、計画・準備を進めた結果、2023年3月3日～12日に7名の学生を派遣した。受け入れはコロナ感染症の影響により中止となった。オーストラリア、Charles Sturt Universityへの派遣に向けてのプログラムの計画・準備を行った。	◆3学科 引き続き、各連携大学での研修プログラム等の実施。		
53	教育研究等の質の向上	教育の質の向上	カリキュラムの検討及び改善	◆3学科 引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 一昨年度より成績下位者への対応として、卒業論文提出フォーマットをこれまでのA4・2枚の他に、A4・1枚の要旨フォーマットを加え、研究テーマも国家試験に直結するような内容として実施した。これにより成績下位者に対する卒論担当教員の負担を軽減し、国家試験に向けての学習、指導にその時間を割くことができたが、成績良好者の研究指導へ時間を増やすところまでには至らなかった。国家試験合格率が2021年度100%、2022年度92.5%であることを考慮すると、現在のカリキュラムは一定の妥当性があると思われるが、より教育効果が上がるカリキュラムの改善を検討をしていきたい。 ◆柔道整復学科 新カリキュラムへの移行も完了し、授業評価アンケートなどを活用することで、カリキュラム全体の再評価を行うことができた。 ◆看護学科 2022年度カリキュラム改訂を行った。	◆3学科 引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。		
54	教育研究等の質の向上	研究の質の向上	研究体制の充実	◆3学科 引き続き、 ・実験機器の充実。 ・多様な領域での基礎、臨床研究及び学際研究の可能な体制強化と研究。 ◆IR委員会 学長からの特命事項である「教員業績調査」について2023年度からの実施に向けて検討を進める。 (一調査結果に基づき、教員の研究活動に対し大学としての必要なサポートを行っていく。)	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎ IR委員会：◎	◆鍼灸学科 コロナ感染症の影響で研究活動に制限があったが、学内の研究機材等を有効に活用して研究を行った。 外部資金獲得については、2件の申請があったが採択は0であった。学内特別研究費は申請した1件が採択された。 ◆柔道整復学科 教員、大学院生、学部生とともに、学内で所有している実験器具を使用し、関連学会、特に日本柔道整復接骨医学会学術大会において積極的に成果報告を行った。 ◆看護学科 学科共同研究費による萌芽的研究の助成を行った。 ◆IR委員会 教員業績調査の2023年度からの実施に向け、調査項目の決定および調査方法の検討を行い、実施の準備を整えた。	◆3学科 引き続き、 ・実験機器の充実。 ・多様な領域での基礎、臨床研究及び学際研究の可能な体制強化と研究。 ◆IR委員会 教員業績調査を実施する。 (一調査結果に基づいて教員の研究活動に対し大学としての必要なサポートを行っていく。)	◆3学科 引き続き、 ・実験機器の充実。 ・多様な領域での基礎、臨床研究及び学際研究の可能な体制強化。	

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
55	教育研究等の質の向上	研究の質の向上	・ 附属鍼灸センターにおける臨床研究（EBM）強化 ・ 研究成果の公表	◆鍼灸学科 附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。 教員、大学院生、研究生、研修生の研究成果の公開。	◎ 鍼灸学科：◎	◆鍼灸学科 附属鍼灸センターに来院した患者からデータを集積した科研費基盤研究C『非特異的腰痛患者に対する鍼の効果』に関する研究、科研費基盤研究C『「肩こり」を問いなおす一米国における「neck pain」との比較から一』の結果の解析し、論文投稿に向けてまとめを行った。 附属鍼灸センターの患者を対象としたケーススタディ、症例集積研究を行い、成果について学会発表、学術論文、修士論文、博士論文を公開した。	◆鍼灸学科 附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。 教員、大学院生、研究生、研修生の研究成果の公開。		
56	教育研究等の質の向上	研究及び学会活動	研究環境の共有・所属学会の相互活用	◆3学科 引き続き、各専門分野における研究の実施を推進し、引き続き、倫理教育の徹底による不正防止体制を堅持。	◎ 鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎ 看護学研究科：◎	◆鍼灸学科 コロナ感染症の影響で研究に制限があったが、学内の研究機材等を有効に活用して研究を行った。 科研費の申請が2件あったが採択には至らなかった。なお3件の科研費による研究が継続中である。学内特別研究費は申請した1件が採択された。 学部3年後学期から始まる卒業研究において、研究倫理に関する講義を行い、講義終了後、理解度試験を行い、その成績を含めた報告書を提出した。 ◆柔道整復学科 2022年9月27日に、卒業研究を開始する柔道整復学科3年生の59名に対し、研究に関する倫理教育を行った。また倫理教育後のフォローアップとして、各学生に対して、指導教員が研究倫理教育を行っている。 ◆看護学科・看護学研究科 3年次生を対象に、ゼミ担当教員が看護研究に係る研究倫理について講義を行った。4年次生・大学院生については、研究倫理を遵守して研究を行うよう各担当教員が指導した。	◆3学科 引き続き、各専門分野における研究の実施を推進し、引き続き、倫理教育の徹底による不正防止体制を堅持。		
57	教育研究等の質の向上	大学院生の将来設計	博士前期課程	◆保健医療学研究科 引き続き、各分野で活躍できる人材育成のための教育内容を充実するために、修了生の就職実績を再検討及び現状把握を実施。	◎ 保健医療学研究科：◎ 看護学研究科：◎	◆保健医療学研究科 大学院の修了生に対しては、主に指導教員が希望進路および就職・進先を把握し、研究活動とともに指導を行っている。 ◆看護学研究科 将来設計の相談を受け、助言した。	◆保健医療学研究科 引き続き、各分野で活躍できる人材育成のための教育内容を充実するために、修了生の就職実績を再検討及び現状把握を実施。		
58	教育研究等の質の向上	大学院生の将来設計	博士後期課程	◆保健医療学研究科 引き続き、将来、専門分野での教育職および研究職で活躍できる人材育成を図るための教育体制強化。	◎ 保健医療学研究科：◎	◆保健医療学研究科 課程修了とともに、博士の学位を取得し、専門分野の研究職として活躍できる人材育成ができた。	◆保健医療学研究科 引き続き、将来、専門分野での教育職および研究職で活躍できる人材育成を図るための教育体制強化。		
59	財政基盤の安定	入学者数の確保	定員、学費、資格（あん摩マッサージ指圧師）、広報関連 ↓ 鍼灸学科による学生募集のための活動（NO.59に統合、NO.60削除）	◆鍼灸学科 鍼灸学科広報ワーキンググループを中心としたアドミッションセンターとの連携による、鍼灸および鍼灸学科の認知度を高めるための広報活動の企画・運営・評価。 附属鍼灸センターによる中高生に対する鍼灸治療体験の実施。	◎ 鍼灸学科：◎	◆鍼灸学科 1～3か月に1回のペースで鍼灸学科広報ワーキンググループによるミーティングを行い、オープンキャンパス、広報活動などについて検討した。その結果、最低ラインの定員数の70%を満たす、43名が入学した。来年度は本年度以上の入学生を確保つなげるための広報活動を行いたい。	◆鍼灸学科 鍼灸学科広報ワーキンググループを中心としたアドミッションセンターとの連携による、鍼灸および鍼灸学科の認知度を高めるための広報活動の企画・運営・評価。 附属鍼灸センターによる中高生に対する鍼灸治療体験の実施。		
60	財政基盤の安定	入学者数の確保	定員、学費、資格（あん摩マッサージ指圧師）、広報関連 ↓ 鍼灸学科による学生募集のための活動（NO.59に統合、NO.60削除）						

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
61	財政基盤の安定	入学者数の確保	高校訪問の実施	◆全学 引き続き、本学の認知度を高めるため、つながりの深い教員が所属する高校や入学実績のある高校への訪問など積極的な募集活動の展開。 ◆アドミッションセンター 引き続き、事務職員が教員と連携して、指定校や本学とつながりが深い高校に対して高校訪問を実施する	◎	◆鍼灸学科 コロナ感染症の影響で、高校に出向いたり、本学内で実施する高校生向け模擬授業は、実施できなかった。 豊洲フェスタ、とよすパークフェスタ、超体験NHKフェス（ツボ・ワークショップ）において鍼灸ブースを出店し、鍼灸と本学の認知度に努めた。また鍼灸学科教員のメディア出演は、本学科の知名度の向上につながってきていると思われる。高校生の鍼灸に関する認知度を効果的に上げるために、鍼灸学科独自のInstagramを活用した広報活動にシフトしたため、高校訪問は行わなかった。 ◆柔道整復学科 柔道整復学科の教員と高校の教員（柔道部の監督・顧問）との深いかかわりから、数多くの入学生を紹介している。新型コロナウイルスの影響で高校訪問はできなかったが、柔道大会の会場にて、高校の教員（柔道部の監督等）に対して広報活動を行うことができた。 ◆看護学科 指定校推薦入試制度を強化するにあたり、その準備として、学部長（学科長）と広報担当者による実績校に対する訪問を行った。訪問不可能な場合には、電話もしくはオンラインにてコンタクトを取った。 ◆アドミッションセンター コロナ禍の下、自由に高校訪問はできなかったが、後半より順次業者主催の高校内ガイダンスに参加できるようになった。	◆全学 引き続き、本学の認知度を高めるため、つながりの深い教員が所属する高校や入学実績のある高校への訪問など積極的な募集活動の展開。 ◆アドミッションセンター 引き続き、事務職員が教員と連携して、指定校や本学とつながりが深い高校に対して高校訪問を実施する		
62	財政基盤の安定	入学者数の確保	スポーツ推薦入試の拡充	◆柔道整復学科、アドミッション 引き続き、スポーツに携わってきた在学生学生が多いため、スポーツ推薦入試のさらなる推進。	◎	◆柔道整復学科、アドミッションセンター オープンキャンパスの参加者や大学を訪問した高校生からスポーツ推薦入試の問合せが多いことから、継続していく実施していく。	◆柔道整復学科、アドミッション 引き続き、スポーツに携わってきた在学生学生が多いため、スポーツ推薦入試のさらなる推進。		
63	財政基盤の安定	入学者数の確保	指定校推薦枠拡大による優秀な学生の確保促進 (入学時におけるミスマッチングの再掲)	◆看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。	◎	◆看護学科 指定校推薦入試からの入学者枠変わらず、指定校推薦合格者にも変化がなし。	◆看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。		
64	財政基盤の安定	入学者数の確保	指定校推薦枠拡大による優秀な学生の確保促進 (入学時におけるミスマッチングの再掲)	◆看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。	◎	◆看護学科 指定校推薦からの入学者の評価は概ね良好だった。	◆看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。		
65	財政基盤の安定	入学者数の確保	オープンキャンパス	◆3学科 引き続き、参加者の入学率は高いことから、オープンキャンパスの参加者数の増加を図り、柔道整復について理解を深めるための企画・運営を実施。 ◆鍼灸学科 アドミッションセンターとの連携によるオープンキャンパスの企画・実施・評価。 (もしくは3学科共通の計画)	◎	◆鍼灸学科 広報ワーキンググループを中心に、1～3か月に1回程度、アドミッションセンターと連携してオープンキャンパスの内容などについて検討・準備を行い、オープンキャンパスを開催した。対面でのオープンキャンパスに加え、遠隔でのオープンキャンパスの実施や、併用しての開催について検討していくほか、今後、SNSなどを駆使した柔軟な広報活動などが必要になるとと思われる。 ◆柔道整復学科 2022年度は、オープンキャンパスを計8回実施した。柔道整復学科を希望した生徒の参加人数は261名であった。 ◆看護学科 オープンキャンパスを計5回開催した。その他OC以外の来場者も含めると計483人（内8人がオンライン）の参加者があった。2021年度は675人であったが、そのうち200人がオンラインであったことを鑑みると、実際の来場者数は去年と同数であった。	◆3学科 引き続き、参加者の入学率は高いことから、オープンキャンパスの参加者数の増加を図り、柔道整復について理解を深めるための企画・運営を実施。 ◆鍼灸学科 アドミッションセンターとの連携によるオープンキャンパスの企画・実施・評価。 (もしくは3学科共通の計画)		

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
66	財政基盤の安定	入学者数の確保	ホームページの充実	◆アドミッションセンター 引き続き、本学の認知度を高めるために、アドミッションセンター運営委員会を中心としたホームページコンテンツのさらなる整備、充実。	アドミッションセンター：◎	◆アドミッションセンター 運営委員会での検討を重ね、動画コンテンツやSNSを充実させ、受験生の参加増加に努めた。	◆アドミッションセンター 引き続き、本学の認知度を高めるために、アドミッションセンター運営委員会を中心としたホームページコンテンツのさらなる整備、充実。		
67	財政基盤の安定	入学者数の確保	宣伝広告	◆アドミッションセンター 引き続き、検討結果の実行。	アドミッションセンター：◎	◆アドミッションセンター 運営委員会において効果的な広報媒体の検討を行い、受験サイトへの掲載を大手2社に絞り広報を行った。 オープンキャンパスの告知メールも時期を選んで業者の持つ医療技術職に興味ある受験生に発送した。 新型コロナに対応しつつ対面でのオープンキャンパスを開催した。進学サイトを通じた申し込みが多く、コロナ以前のようなオープンキャンパスと同等の参加実績があった。	◆アドミッションセンター 引き続き、検討結果の実行。		
68	財政基盤の安定	入学者数の確保	卒業生へのアプローチ	◆柔道整復学科 引き続き、各地で活躍する卒業生にコンタクトを取り、本学の知名度を高める活動の依頼。 ・引き続き、さらなる社会人経験のある学生の受入れ（例社会人入試、編入学入試）体制の整備。	柔道整復学科：◎	◆柔道整復学科 本学の卒業生の勤務する接骨院に来院した患者が本学に入学あるいはオープンキャンパスに参加するなど、卒業生による紹介が増加している。	◆柔道整復学科 引き続き、各地で活躍する卒業生にコンタクトを取り、本学の知名度を高める活動の依頼。 ・引き続き、さらなる社会人経験のある学生の受入れ（例社会人入試、編入学入試）体制の整備。		
69	財政基盤の安定	外部資金の獲得	科研費の積極的確保	◆公的研究支援室 応募意欲のある研究者を中心に外部の科研費獲得セミナーや外部講師による科研費申請書添削サービス等の体制を整備し、科研費間接経費の活用を促進する。	公的研究支援室：○	◆公的研究支援室 申請書添削サービスの利用や科研費獲得セミナーへの参加、科研費獲得関連書籍等を利用しての科研費応募があった。申請書添削サービスは、科研費応募経験の乏しい若手研究者にとって有益であると思われるが、より積極的に取り組みを促したい。	◆公的研究支援室 引き続き、応募意欲のある研究者を中心に外部の科研費獲得セミナーや外部講師による科研費申請書添削サービス等の体制を整備し、科研費間接経費の活用を促進する。		
70	財政基盤の安定	外部資金の獲得	科研費等研究助成事業	◆3学科 引き続き、科研費等研究助成事業へのさらなる積極的な応募。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：○ 看護学科：○	◆鍼灸学科 科研費申請2件があったが採択には至らなかった。 ひらめきときめきサイエンスは申請1件で採択に至った。現在基盤研究Bを含め3件の科研費による研究が継続中である。 ◆柔道整復学科 学科内の教員より、競争的資金（科研費）の獲得のための2名の応募があった。 ◆看護学科 科学研究費等研究助成は一定数あった。ただし、その他の研究助成へのトライアルは少なかった。	◆3学科 引き続き、科研費等研究助成事業へのさらなる積極的な応募。		
71	財政基盤の安定	外部資金の獲得	経常費補助金の増加	◆財務部 経常費の補助要件を十分検討し、利用可能な補助金を積極的に活用していく。	財務部：△	◆財務部 補助要件の検討実施は十分に行ったが、補助金増額に至るまでの成果は出せなかった。 また、私学事業団による調査において、学生相談関連において、減額されることとなった。（令和6年度に330万円減額。）			

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
72	財政基盤の安定	外部資金の獲得	外部資金のデータベース整理および競争的資金の獲得に向けた応募の推奨	<p>◆3学科 引き続き、外部資金のデータベース整理。および、外部資金獲得のため、若手教員に対して申請書類作成指導を実施。</p> <p>◆鍼灸学科 外部資金獲得のため、若手教員に対して申請書類作成指導を実施。</p>	<p>鍼灸学科：△ 柔道整復学科：△ 看護学科：△</p>	<p>◆鍼灸学科 教員自身が外部資金の情報を得る余裕はなく科研費のみの申請となった。データベースの整理を行うことは困難で、会計課・公的研究支援室等でのデータベースの整理・管理が望ましいと思われる。学科として、学部資金の応募を推奨したが、科研費の応募は2件にとどまった。</p> <p>◆柔道整復学科 学科内の教員より、競争的資金（科研費）の獲得のための2名の応募があった。</p> <p>◆看護学科 外部資金獲得準備のため、学科共同研究費等の学内研究費活用の推奨を行った。</p>	<p>◆3学科 引き続き、外部資金のデータベース整理。および、外部資金獲得のため、若手教員に対して申請書類作成指導を実施。</p> <p>◆鍼灸学科 外部資金獲得のため、若手教員に対して申請書類作成指導を実施。</p>	<p>◆鍼灸学科 外部資金獲得のための環境づくりについての検討。</p>	
73	財政基盤の安定	外部資金の獲得	学内特別研究費	<p>◆3学科 引き続き ・申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運用。</p>	<p>鍼灸学科：○ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎</p>	<p>◆鍼灸学科 学内特別研究費は1件の申請があり採択された。申請書作成の相互協力は研究グループ内で行われた。</p> <p>◆柔道整復学科 特別研究費の募集に対して、積極的に応募し5名（新規1名・継続4名）が採択された。</p> <p>◆看護学科 特別研究費等への応募を行い、特別研究費（新規1件）、教育改革推進費（継続1件）が採択された。</p>	<p>◆3学科 引き続き ・申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運用。</p>		
74	財政基盤の安定	外部資金の獲得	教員研究の推進のための学科共同研究費による萌芽的研究助成	<p>◆看護学科 引き続き、学科共同研究費による萌芽的研究助成。</p>	<p>看護学科：◎</p>	<p>◆看護学科 学科共同研究費により、教員研究を推進した。</p>	<p>◆看護学科 引き続き、学科共同研究費による萌芽的研究助成。</p>		
75	財政基盤の安定	人件費の抑制	教員	<p>◆3学科 引き続き、授業数/週に基づく教員の再構成。</p>	<p>鍼灸学科：○ 柔道整復学科：◎ 看護学科：○</p>	<p>◆鍼灸学科 国家試験の合格率は90%を保っていることから、教員の再構成はしていない。</p> <p>◆柔道整復学科 専任教員が補助教員に入ること、よりきめ細かい実技教育がなされたとともに、人件費の抑制につながったと考えられる。</p> <p>◆看護学科 各教員ごとに、授業数/週および学内業務担当に基づく教員の稼働量の評価を実施し、担当内容の各再構成を行った。</p>	<p>◆3学科 引き続き、授業数/週に基づく教員の再構成。</p>		
76	財政基盤の安定	人件費の抑制	人件費の抑制	<p>◆法人本部 過去4年間の学生確保の状況に基づき、人件費の抑制策を実施する。</p>	<p>法人本部：○</p>	<p>◆法人本部 2023年2月に人材マネジメントシステム（「カオナビ」）を導入し、教職員の人事基本情報の登録を開始した。登録情報の範囲、内容を充実させ、適材適所による教職員の配属、人事異動の参考とし、効率的な人材活用による人件費の適正化を図る情報基盤を整えた。</p>	<p>◆法人本部 引き続き、過去5年間の学生確保の状況に基づき、人件費の抑制策を実施する。</p>		
77	財政基盤の安定	物件費の削減	購入単価の見直し	<p>◆保健医療学部、看護学部、総務部、財務部、学務部、附属クリニック、附属鍼灸センター、附属接骨センター ・検証。</p>	<p>財務部：○</p>	<p>◆財務部 研究費や教材費の削減を行ってきたが、円安や物価高騰による値上げ等、物件費削減の難しい状況であった。数量を減らすことはできたが、金額はかわらなかった。</p>	<p>◆保健医療学部、看護学部、総務部、財務部、学務部、附属クリニック、附属鍼灸センター、附属接骨センター ・検証。</p>		

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
78	財政基盤の安定	物件費の削減	一般管理費の契約見直し及び経費削減の実施。 中期計画期間の最終年度までの目標⇒一般管理 経費5%削減	◆財務部 前年度に引き続き、一般管理 費の削減推進。	財務部：○	◆財務部 教育研究経費と同様、物価の上昇は避けられず、今 後も契約等の見直しによる経費削減は難しい状況にあ る。購入数量等の見直しも踏まえながら全体として経 費削減を目指していく。数量を減らすことはできた が、金額はかわらなかった。	◆財務部 前年度に引き続き、一般管理 費の削減推進。		
追加3	財政基盤の安定	物件費の削減	ペーパーレス化の推進	◆財務部 2024年度の電子帳簿保存法の 義務化に照準を合わせ、請求 書等の証憑類の早期回収を図 る。	財務部：○	◆財務部 申請書類提出の遅い場合（請求書や領収書に記載の 日付と申請書提出時期に大きな乖離がある場合）、個 別に注意を促した。	◆財務部 2024年度の電子帳簿保存法の 義務化に照準を合わせ、タイ ムスタンプの導入を検討す る。		
79	財政基盤の安定	余裕金の活用	現預金の確保と活用	◆法人本部 引き続き、現預金の活用にあ たっては、安全性に留意し有 利な条件での運用を実施。	法人本部：◎	◆法人本部 2022年度上期は、定期預金を増額し、仕組債の償還 と株式の売却資金を投資信託の運用に再配分し、運用 残高割合の見直しを図った。 下期は、新たな運用は行わなかった。 2022年3月末の運用割合残高は、資産運用規程の規 定範囲内で管理されている。 2022年3月の時価評価損益は、9,273万円のプラス、 受取利息は2,433万円となった。	◆法人本部 引き続き、現預金の活用にあ たっては、安全性に留意し有 利な条件での運用を実施。		
80	業務運営の改善	ガバナンスの強化	大学の適切な運営実施のためにIR委員会を活 用し、学内外の様々なデータの収集、分析、可 視化を行い、学長の意思決定を支援。	◆IR委員会 引き続き、IR委員会を活用 し、IR委員会が関係部署と連 携の上、データ収集、分析、 可視化を行い、学長の意思決 定を支援。 ◆事務局 法人本部と連携し、ガバナン ス・コードを策定を進め、ガ バナンスの強化に努める。	IR委員会：◎ 事務局：△	◆IR委員会 令和4年度も学修行動調査を実施したほか、学長の 指示に基づき、教員の業績調査の実施に向け、調査項 目等を決定した。 ◆事務局 ガバナンスコードの策定に向け、参考となる資料の 収集を行った。	◆IR委員会 引き続き、IR委員会を活用 し、IR委員会が関係部署と連 携の上、データ収集、分析、 可視化を行い、学長の意思決 定を支援。	◆事務局 法人本部と連携し、ガバナン ス・コードを策定を進め、ガ バナンスの強化に努める。	
81	業務運営の改善	内部統制の強化	教職員等を対象に研究不正防止を目的とした倫 理観や責任感を培うため、研究活動を通して全 方位的な不正防止策への取組について周知徹底 を継続実施する。	◆財務部 全教職員に対し、研究費獲得 前、獲得後の研究実施、研究 費配分後の収支管理に区分し て研修を実施する。更にそれ ぞれのテーマにおいて当該年 度における重点課題を相互共 有することで、全学的な不正 防止策を目指す。（当年度 は、前年度までの問題点を整 理し、重点課題とする。） ◆公的研究支援室 公的研究費の管理・監査のガ イドライン（令和3年2月1日 改正）に基づき、不正発生要 因を抽出した不正防止計画に 取組み、不正の発生し難い体 制整備に努めていく。	公的研究支援室： ◎	◆公的研究支援室 研究機関としての不正防止計画の公表、及び実施は 機能しており、コンプライアンス研修の受講状況も良 好であった。	◆財務部 全教職員に対し、研究費獲得 前、獲得後の研究実施、研究 費配分後の収支管理に区分し て研修を実施する。更にそれ ぞれのテーマにおいて当該年 度における重点課題を相互共 有することで、全学的な不正 防止策を目指す。（当年度 は、前年度までの問題点を整 理し、重点課題とする。） ◆公的研究支援室 公的研究費の管理・監査のガ イドライン（令和3年2月1日 改正）に基づき、不正発生要 因を抽出した不正防止計画に 取組み、不正の発生し難い体 制整備に努めていく。		

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
82	業務運営の改善	内部統制の強化	監事との意思疎通を定期的に実施し、必要な情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。また、監査結果や意見の速やかな改善。	◆内部監査室 内部監査の結果は理事長に報告すると同時に、内部統制の整備及び運用状況を検討、評価し必要に応じてその改善を促す。 また、監事及び会計監査人との意思疎通を定期的に実施し、内部監査室は必要な情報を速やかに提供するなど監事監査及び会計監査人監査の目的達成に貢献する。	内部監査室：◎	◆内部監査室 内部統制を図るうえで、内部監査室としては、定期監査（会計監査8回（渋谷、有明各4回）、公的研究費監査1回）を実施するとともに、相互補完的に位置付けられている監事・会計監査・内部監査室による三様監査を効果的に進め、定期的に意思疎通を図り、必要な情報を相互に交換し、理事長へ監査の報告を行った。 また、臨時監査として、東京有明医療大学中長期計画のPDCAサイクル実施状況（2021年度分）について、業務実施状況のヒアリングを実施した。	◆内部監査室 内部監査の結果は理事長に報告すると同時に、内部統制の整備及び運用状況を検討、評価し必要に応じてその改善を促す。 また、監事及び会計監査人との意思疎通を定期的に実施し、内部監査室は必要な情報を速やかに提供するなど監事監査及び会計監査人監査の目的達成に貢献する。		
83	業務運営の改善	戦略的な広報体制の確立	国家試験結果、学生の進路先、大学イベントの公表	◆総務課 引き続き、国家試験結果・学生の進路・大学イベント等の公表。	総務課：◎	◆総務課 情報公開ページの見直しを行い、情報を更新・掲載した。	◆総務課 引き続き、国家試験結果・学生の進路・大学イベント等の公表。		
84	業務運営の改善	戦略的な広報体制の確立	教員の活動に関する公表	◆IR委員会 引き続き、教員の研究活動に関する調査を行い、公表に結びつける。	IR委員会：○	◆IR委員会 教員の成果の把握が十分なされておらず、教員の活動に関する情報公開ができていないが、IR委員会においては教員の業績調査に着手した。	◆IR委員会 引き続き、教員の研究活動に関する調査を行い、公表に結びつける。	◆IR委員会 教員業績調査結果の公表方法の検討	
85	業務運営の改善	情報公開（削除）	ソーシャルメディア（削除）						
86	業務運営の改善	Webサイト	更新作業の効率化	◆情報センター CMS導入効果を検証。	情報センター：◎	◆情報センター Webサイトの更新作業を情報センター以外の職員が行えるようにCMSのアカウントを配布した。			
87	業務運営の改善	教職員の業務省力化	ICT導入による業務省力化	◆情報センター 学内合意が得られておらず、引き続き、動画やリモートの講習会も検討し、講習会開催に向け調整する。	情報センター：○	◆情報センター 2022年度に予算の順位が下がったため、安価にできる評価用システムの設計を行う。引き続き講習会開催に向けて調整する。	◆情報センター 22年度に予算の順位が下がったため、より安価にできる方法で設計する。		
88	自己点検・評価	外部評価機関の活用	日本高等教育評価機構による認証評価受審	◆全学 日本高等教育評価機構による認証評価を受審し、その結果を改善に向け有効活用する。	全学（評価委員会）：◎	◆全学（評価委員会） 日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、『適正』の評価結果を受けた。	◆評価委員会 認証評価結果での参考意見等を踏まえた改善策を策定、実施していく。		

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
89	自己点検・評価	自己点検・評価の実施	中期計画、年度計画について、各部署において、自己点検・評価を実施するとともに学長を中心とした評価委員会で適切な進捗管理を実施。	◆評価委員会、総務部 引き続き、年度計画について、評価委員会が進捗状況を管理し着実な計画の遂行。	◎	◆大学評価委員会 中長期計画（PDCAサイクル表）の進捗状況を管理し、計画の遂行状況の把握に努めた。 内部監査室による実施状況のヒアリングを実施し、委員会において報告を受けた。	◆評価委員会、総務部 引き続き、年度計画について、評価委員会が進捗状況を管理し着実な計画の遂行。	◆評価委員会 骨太の方針に基づき、次期中期計画を作成する。	
90	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	シミュレーション・ラボの整備及び有効活用	◆看護学科 引き続き、シミュレーションラボの運用・評価。	◎	◆看護学科 4年生科目「シミュレーション演習」にて、シミュレーションラボを活用した。 看護学科において「シミュレーション教育プログラム開発」の3カ年計画の初年度として、シミュレーターを用いたプログラムの開発とテストランを行った。	◆看護学科 引き続き、シミュレーションラボの運用・評価。		
91	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	既存施設・設備の調査による状況の的確な把握。その結果に基づく保守管理計画を策定し維持保全を推進。	◆総務部 2021年度に作成した長期修繕計画を基に、計画を推進していく。	◎	◆総務部 点検結果を基に施設設備の現状を的確に把握し、必要な箇所については適宜修繕を実施し、キャンパス環境の整備を行った。 株式会社清水建設の助言を受けながら長期的な設備保守管理計画案の作成に着手した。	◆総務部 2021年度に作成した長期修繕計画を基に、計画を推進していく。		
92	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	防災設備	◆総務部、財務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	◎	◆総務部 点検の結果、2022年度は一部の消耗品の交換を行い、施設の維持に努めた。 2023年度以降、引き続き点検を実施し、必要に応じた対応を行えるよう、準備する。 ◆財務部 修繕費予算は毎年増額しており、劣化や故障に対応するための予算措置を講じている。	◆総務部、財務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。		
93	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	衛生設備	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。 2022年度は新たに個室トイレにウォシュレットを整備する予定。	◎	◆総務部 2022年5月にトイレの全個室にウォシュレットを整備した。 定期点検の結果、設備の一部に経年劣化による故障が認められたため、修繕を実施。2023年度以降、引き続き点検を実施し、必要に応じた対応を行えるよう、準備する。	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。		
94	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	電気設備	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	◎	◆総務部 点検の結果、設備の一部に経年劣化による故障が認められたため、修繕を実施。2023年度以降、引き続き点検を実施し、必要に応じた対応を行えるよう、準備する。	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。		
95	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	建築設備	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	◎	◆総務部 2022年8月に建物外壁の全面打診検査と屋外広告物の設置状況検査を行い、問題が無いことを確認した。 検査結果を東京都と江東区に提出した。 定期点検については、設備の一部に経年劣化による故障が認められたため、修繕を実施。2023年度以降、引き続き点検を実施し、必要に応じた対応を行えるよう、準備する。	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。		

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
96	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	既存の安全管理・危機管理（リスクマネジメント）体制の検証及び体制の見直しや強化を推進。また、マニュアル等の改訂及び周知徹底を促進。	◆危機管理委員会、防災対策委員課、総務部 必要に応じ、安全管理・危機管理体制やマニュアル等を改善。	◎	◆危機管理委員会、総務部 危機管理マニュアルを改定し、教職員ポータルにて教職員に周知した。	◆危機管理委員会、総務部 必要に応じ、安全管理・危機管理体制やマニュアル等を改善。	◆危機管理委員会 危機管理個別マニュアルの充実（各担当部署、委員会での対応推進） ◆総務部 江東区との災害時における協定締結の検討。	
97	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	備蓄	◆危機管理委員会、防災対策委員会、総務部 非常用飲料水の消費期限が2021年11月で切れるため、入れ替えをする。また、新たに非常用食料を500食分購入する。	◎	◆危機管理委員会、防災対策委員会、総務部 備蓄食料を計画的に入れ替えるため、2022年度は消費期限が切れた非常用飲料水を200本に入れ替え、新たに非常用食料を200食分購入した。	◆危機管理委員会、防災対策委員会、総務部 引き続き、震災時などに対する備蓄。	◆危機管理委員会、防災対策委員会、総務部 備蓄食料を計画的に入れ替えるため、2023年度は消費期限が切れた非常用飲料水を200本に入れ替え、新たに非常用食料を200食分購入する。	
98	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	守衛、防犯カメラ	◆事務局 2021年度に入れ替えた防犯カメラを適切に運用し、警備会社や守衛（用務員）と連携して防犯に努める。	◎	◆事務局（総務部） 防犯カメラを適切に運用し、警備会社や守衛（用務員）と連携して防犯に努めた。		◆事務局 2021年度に入れ替えた防犯カメラを適切に運用し、警備会社や守衛（用務員）と連携して防犯に努める。	
99	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	学外への業務データ保管・二重化	◆情報センター 現行サーバの保守更新ができる場合にはサーバの更新を2023年度に後ろ倒しする。保守更新ができない場合には完了する。	◎	◆情報センター 現行サーバは1年間の保守延長ができた。新サーバへの移行について設計・発注まで完了し、作業を2023年度に行うことになった。			
100	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	研究環境の整備	◆3学科、財務部、学務部 研究環境の充実に関する検討。（科研費間接経費の有効利用を含む）	○	◆鍼灸学科 鍼灸学科においては、入学者の定員が確保されていないことから学科共同研究費による機材の新規購入などを控えてきた。今後、研究環境の整備に関わるような用途についての検討をしていく。 ◆財務部 啓発記事配信の際、研究者へのアンケートにおいて、研究環境に対する要望欄を設け、情報収集を図った。	◆3学科、財務部、学務部 研究環境の充実に関する検討。（科研費間接経費の有効利用を含む）		
101	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	課外活動団体の部室確保（削除、NO.17へ）						
102	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	ネットワーク関係の整備	◆情報センター 次期SINETへの移行および対外接続用のルータ・ファイアウォールの更新を完了。	◎	◆情報センター 予定通りSINET6への移行とファイアウォールを更新し問題なく運用している。			

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
103	キャンパス整備・危機管理	社会貢献・文化活動の推進	附属鍼灸センター (削除、NO.31へ)						
104	キャンパス整備・危機管理	社会貢献・文化活動の推進	附属鍼灸センター	◆附属鍼灸センター 引き続き、附属鍼灸センター 来院患者等に関連した医療機 関との連携。	附属鍼灸セン ター：◎	◆附属鍼灸センター 患者への対応として必要に応じて医療機関と連携す ることができた。	◆附属鍼灸センター 引き続き、附属鍼灸センター 来院患者等に関連した医療機 関との連携。	◆附属鍼灸センター 引き続き、附属鍼灸センター 来院患者等に関連した医療機 関との連携。	
105	キャンパス整備・危機管理	社会貢献・文化活動の推進	附属鍼灸センター (削除、NO.31へ)						
106	キャンパス整備・危機管理	社会貢献・文化活動の推進	区民公開講座の開催	◆看護学科 引き続き、区民公開講座の開 催。	看護学科：一	◆看護学科 コロナ感染症流行下のため開催なし。	◆看護学科 引き続き、区民公開講座の開 催。		
107	キャンパス整備・危機管理	附属接骨センターの充実	人的・設備環境の整備	◆附属接骨センター ・引き続き、患者が安心して 来院できる様、新たな人材の 登用。 ・引き続き、患者のプライバ シー保護をさらに配慮した環 境整備の促進。	附属接骨セン ター：◎	◆附属接骨センター 柔道整復師の資格を持つ教員および大学院生が患者 の施術に当たっている。また施術所内における各治療 スペースは、パーテーションで隔てており、患者のプ ライバシー保護に十分配慮している。	◆附属接骨センター ・引き続き、患者が安心して 来院できる様、新たな人材の 登用。 ・引き続き、患者のプライバ シー保護をさらに配慮した環 境整備の促進。		
108	キャンパス整備・危機管理	サーバの整備		◆情報センター 現行サーバの保守更新ができる 場合にはサーバの更新を2023 年度に後ろ倒しする。 保守更新ができない場合には更 新を完了する。	情報センター：◎	◆情報センター 現行サーバは1年間の保守延長ができた。新サーバへの 移行について設計・発注まで完了し、作業を2023年度に行 うことになった。	◆情報センター 2022年度に認証基盤、ファイル サーバの更新を完了しなかった 場合には、2023年度に更新す る。		
109	キャンパス整備・危機管理	職員の業務用PCの整備		◆情報センター 引き続き、Windows10のサポート 終了時期及び次期Windowsに関 する調査実施。	情報センター：◎	◆情報センター Windows10のサポート期間が2025年までであることを確認 した。	◆情報センター 引き続き、Windows10のサポート 終了時期及び次期Windowsに関 する調査実施。		
110	キャンパス整備・危機管理	コンピュータ教室	老朽化した機器の入れ替え	◆情報センター 卓上プロジェクタを増設し故障に 備えており、入れ替えは22年度 以降の課題。予算面をクリアする ため、補助金の利用などを検討。	情報センター：◎	◆情報センター 卓上プロジェクタを授業で利用していただき、スク リーンが16:10(WXGA)になっていない問題を除き、画 質は良好で十分使っていた。			

①中長期計画一覧表（2018～2023年度分）

NO	大項目	中項目	小項目	2022年度	実施結果		2023年度	2023年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
111	キャンパス整備・危機管理	セキュリティ対策	セキュリティ対策	◆情報センター 引き続き、セキュリティ関連情報を収集し、教職員学生に注意喚起・教育し、システム整備を実施。	◎ 情報センター	◆情報センター 職員が8/18にMicrosoft 365のセキュリティ機能の使い方、2/8～10に文科省のサイバーセキュリティ研修（CSIRT研修応用編）を受講した。3/2に教職員向けにセキュリティ研修を行い注意喚起と教育を行った。	◆情報センター 引き続き、セキュリティ関連情報を収集し、教職員学生に注意喚起・教育し、システム整備を実施。		
112	キャンパス整備・危機管理	安全衛生管理	安全衛生管理	◆衛生委員会 引き続き、職場巡視やストレスチェック、健康・診断を実施し、委員会で結果の調査、検討を実施、必要に応じて改善する。	◎ 衛生委員会	◆衛生委員会 産業医や衛生管理者は、毎月職場巡視チェックリストを基に巡視を実施した。 前学期、後学期の節目に感染の状況や学内の状況について情報収集し感染防止対策を見直すことができた。 ◆附属クリニック、保健管理センター、総務部 4月16、17日にコロナワクチン職域接種（3回目）を実施。大学及び渋谷専門学校、教職員の他、近隣（江東区内）教育機関の教職員を対象として424名への接種を行った。	◆衛生委員会 引き続き、職場巡視やストレスチェック、健康・診断を実施し、委員会で結果の調査、検討を実施、必要に応じて改善する。		